

〔課題演習抄録〕

資料の関連的な読みとりに着目した社会科授業づくり

溝 田 友 気

Yuki MIZOTA

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース

キーワード：社会科教育，資料活用，思考力・判断力・表現力

1 研究の目的

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編では、社会科の課題として、「資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分である」と指摘している。

北（2008）は、資料活用の意義について、「社会の事象から見えるもの（事実）を発見し、そこから見えないところ（意味）を考えさせること」と述べている。また、澤井（2013）は、社会科における考える力とは「知識や資料活用等で得た情報を、比較・関連づけ・総合して社会的事象の特色、相互の関連、意味について考えることである」としている。これらから、資料活用には事実を発見する（知識・技能）と意味を考える（思考力、判断力等）の二つの段階があると考えられる。

加えて、北（2008）は、資料活用の課題として、子どもの資料を見る視点が明確になっていないことや、学習者が自力で読み取る資料の使用が少なくなったことを挙げている。

このことから社会科では生徒の実態に応じた適切な資料を準備する必要がある。

森分（1997）は、「思考力の育成は社会科学学習指導の中心課題」であり、思考は内容（知識・理解）と形式（思考・技能）が一体であるとしている。また、思考技能として「類似点と相違点をみきわめる」、「仮説を作り、検証する」、「原因と結果をみきわめる」の三点をあげている。

本研究の目的は、生徒の思考する過程の可視化が資料活用にどのような影響を与えるのかを探るとともに、社会科における思考力の育成を目指している。

2 研究の計画

時期	内容
M2前期	①研究構想Ⅰ ②教材研究Ⅰ ③実践授業Ⅰ ④授業分析とまとめⅠ
M2後期	⑤研究構想Ⅱ ⑥教材研究Ⅱ ⑦実践授業Ⅱ ⑧授業分析とまとめⅡ

3 研究の内容

(1) 実践授業Ⅰ

単元名	世界の諸地域 アジア州 （全6時間）
本時	経済発展を急速にとげた中国（3/6）
実施日	平成30年6月27日
学習者	福岡市立W中学校：第1学年（30名）
主眼	・資料や教科書から中国の環境問題や人口の多さなどの特徴や食生活や交通状況などの変化を読み取る。 ・経済発展のもたらす変化について、中国の特徴である人口増加と関連づけて表現する。

① 授業の概要

本授業では、建物・食事・交通の三つについて、経済発展による変化がとらえやすい二つの年代から計8枚の写真資料を準備して資料の関連的な読み取りを行う活動を位置づけた。

生徒は、これまでにアジア州の地球的課題として、「人口増加・食糧問題」を学習している。

そこで、この地球的課題と、本授業の資料から得た情報と関連させて、中国の経済発展を考えさせる授業を構想し、実践した。

② 使用した資料

資料	変化	ねらい
A 1990年と2010年の上海の景観	・低層の建物から高層の建物へ建て替わっている。 ・埋め立てを行い、土地の利用法が異なっている。	土木や建築に関する技術の向上や、労働力の流入を読み取らせる。
B 1970年代から現在にかけての交通手段	・一台に数十人乗車するトラックや数多くの自転車での移動 ⇒数多くの自動車、電車での移動に変わっている。	車の増加・普及や、道路、鉄道をはじめとするインフラの整備を読み取らせ、経済発展について捉えさせる。
C 1970年代と1980年代の食事	・家族で食卓を囲んで、質素な食事 ⇒外資系ファーストフード店での一人での食事	経済発展に伴い、外国企業が参入し、食生活が変容したことを読み取らせる。

補足資料として、資料Cには農村における計画

経済から生産請負制への移行による変化に関する説明資料を追加した。

③ 実践授業の考察

生徒の記述には、教科書の記述の書き写しや、資料の書き写しが半数以上あった。その要因としては、次の2点が考えられる。

1 点目は、資料の読み取りの視点に関する手立ての不足である。読み取りの視点は「どのような」、「どんな」といった抽象的な発問であったため、具体性に欠け、多くの生徒が周りを見渡すなど活動の方向性が定まらない様子が見られた。

2 点目は、資料から読み取った情報と本時の学習課題の関連が弱かったことである。資料で読み取った内容と中国の変化の特色と課題に加えて、前時までに学習した内容まで関連付けて記述することを想定していた。しかし、読み取りの視点の具体化が十分ではなかった。

(2) 実践授業Ⅱ

単元名	世界の諸地域 南アメリカ州 (全5時間)
本時	ブラジルにみる環境問題 (4/5)
実施日	平成30年11月7日
学習者	福岡市立W中学校：第1学年(89名)
主眼	ブラジルの開発に関わる諸資料をもとに、開発と環境保護の両立に関する自分の考えを記述することができる。

① 授業の概要

本授業では、南アメリカ州に位置するブラジル連邦共和国における開発のメリット・デメリットについて、表やグラフの統計資料、文章資料、写真資料などから読み取る活動を位置づけた。

また、本授業の資料から読み取った開発のメリットとデメリットを関連させて、環境問題と開発の対立関係について考えさせる授業を構想し、実践した。

② 使用した資料

資料	ねらい
A 1990年から2015年にかけてのブラジルの森林面積と平均所得の推移を示したグラフ	森林面積の減少と平均所得の増加は、開発と関連があることを読み取らせる。
B ブラジルの主要な輸出品目と世界貿易での割合、世界ランキングを示した表	ブラジルの輸出が膨大であることから、世界での影響力があることや、輸出入の生産には開発を行っていることを読み取らせる。
C 土壌侵食を解説した文章と写真	土地開発の結果、耕作不適地を生み出すことや、このような開発は生産効率を重視していることを読み取らせる。
D アマゾンの開発の例を表した文章	他の資料と関連させて、開発に関する読み取りを深める。

資料Cには、生産効率に着目させるため、生産効率は低いが、土壌侵食を引き起こす可能性が低い伝統的な焼き畑農業に関する説明資料を追加した。

③ 実践授業の考察

本時の生徒の記述については、資料を関連付け

た記述であると判断できるものと判断が難しい記述の二つに分かれた。判断をできにくい要因として、それらの記述には既有的知識や生活体験から得た内容が関連付けられており、生徒の自己解釈が内在しているのではないかと考える。

また、グラフや統計資料の読み取り内容を、学習課題の根拠として使用する場合は、内容についての解釈を伴わなければならない。そのため、事実のみの読み取りでなく、その背景や意味を考える学習活動に対して有効であると考えられる。

4 成果と課題

成果として、資料を読みとる視点が明確でない場合は、資料から事実を読み取る際のつまずきに直結することが明らかになった。また、事実を読み取れなかった場合は、当然のことながら資料の意味を考える段階に進むことはできないことも明らかになった。

加えて、関連的な読み取りや関連的な思考についての成果として、資料の意味や読み取った内容が学習課題の根拠となることは明らかになった。

課題として、生徒が資料をどのように整理して、関連付け、記述などの表現に至ったかを明確にできなかった。どの資料を活用しているかについては推測できるが、資料を用いた理由や背景、資料にはない生活体験から得た考えなどは分析することができなかった。この過程を明確にできれば、関連付けを意識して思考力の育成という社会科における中心課題の解決への糸口になると考える。

今後の展望として、資料を取り扱った授業過程の追究と関連付けに至る生徒の思考過程について研究を続けていきたい。そのために、資料を読み取る視点についての手立ての明確化や、生徒の思考を可視化する方策の追究に努める。併せて、年間指導計画に資料活用や思考技能に関する指導内容等を位置付ける。

主な引用・参考文献

- 北俊夫 2008 新教育課程と社会科授業構想 明治図書
 文部科学省 2017 学習指導要領社会編解説
 森分孝治 1997 社会科における思考力育成の基本原則—形式主義・活動主義的偏向の克服のために— 「社会科学研究」第47号 (p.p.1-10)
 日本社会科教育学会編 2016 新版 社会科教育辞典 ぎょうせい
 澤井陽介 2013 小学校社会科授業を変える5つのフォーカス「よりよい社会の形成に参画する資質や基礎」を培うために 図書文化